



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(31) ア ンドンクラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(31) アンドンクラゲ. 紀伊民報
2011

ISSUE DATE:

2011-08-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180164>

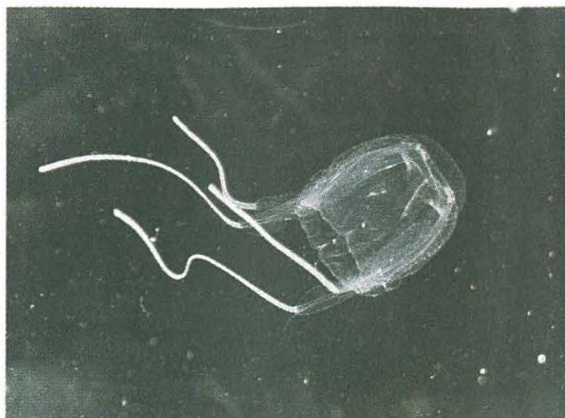
RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)8月26日 金曜日 第20676号 (14)

アンドンクラゲ



箱形の透明な傘が特徴のアンドンクラゲ

透明な傘は特徴的な箱形で、あんなの形に似ている。傘の高さは4センチほど小さい。傘が箱形なので立方クラゲ類に分類されるが、この類は世界でたった20種ほどしか知られていない。その正体がアンドンクラゲということが多い。

この個体は白浜町の瀬戸漁港内で捕獲したものだが、長い触手は切れて短くなっている。触手の刺胞は毒性が強く、刺されると腫れて痛む。触手の根元は葉のようなゼラチン質の膨らみがあるのが特徴だ。餌は強力な毒で小魚をとらえて食べる。だいたい1日くらいで消化して、骨などは口から吐き出す。口と肛門(こうもん)は同じなのがこの仲間の特徴である。

4本の触手を長く伸ばし、すいすいと素早く泳ぐのがアンドンクラゲだ。お盆ごろにクラゲによく刺されるが、見

久保田 信

31



ていない。しかし、最も進化したクラゲで、素早い遊泳力とともに感覚器が優れている。

感覚器を傘縁に4個備え、各感覚器には目がある。しかもその目は人間やタコのように像を結び、ものの形が分かる。レンズと網膜があるからで、脳のないクラゲになぜこのように精巧な感覚器が備わっているのかは謎である。レンズを取り出して磨くと、年輪のような断面が多数現れる。これは1日に1本できる。よつなので、クラゲの年齢が分かるわけだ。その数は最大で100本前後になる。

若い時期のポリプは、小さく、野外で発見するのは難しい。海底で暮らしていてイソギンチャクのように単体だ。このポリプからクラゲになる方法はポリプ自体がすっかりクラゲに変身してしまう。いわゆるチョウのような完全変態を遂げるのだ。例えば精巧な感覚器はポリプの触手が変形してつくられる不思議がある。(京都大学准教授)